

飢肥城下まつり

(10月第3土・日)

飢肥の町を中心に繰り広げられる、江戸時代さながらのお祭りです。初日は早馬疾走や泰平踊の後、城内でステージイベントを開催。2日目の国道を封鎖して行う武者行列や泰平踊、ミスお姫様などのパレードは圧巻。

歴史絵巻に魅了されよう!



食べあるき・町あるき チケット販売所

飢肥城入館券や「食べあるき引換券付マップ」がセットになったお得なチケットを販売しています。



♪日南市観光ガイド ボランティア♪

予約制ですので1週間前までにご予約下さい。

観光客の人達のためにボランティアガイドの会が発足、飢肥城観光を無料で案内しています。

お問い合わせ先 日南市観光協会
TEL.0987(31)0606



癒しの森でリフレッシュ!

樹齢100年を越える杉木立と深い緑のじゅうたんを敷き詰めたような旧本丸は、「癒しの森」と呼ばれます。天に向かって真っ直ぐに伸びた杉木立を仰ぎ見ると、木々の間から青い空が見え、この場所にいるだけで心が開放され癒されます。



【お問い合わせ先】

宮崎県日南市 観光・スポーツ課

〒889-2535 宮崎県日南市飢肥4丁目2-20-1

TEL 0987-25-1905(小村記念館内)

TEL 0987-27-3315(観光案内所)

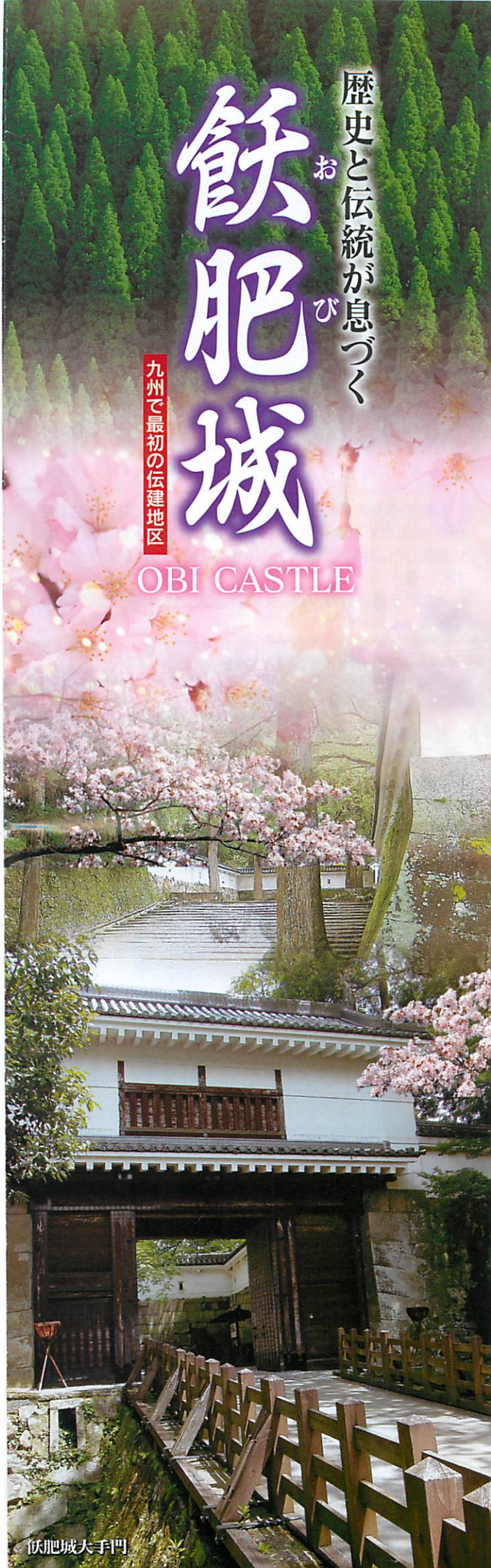
2020年7月

歴史と伝統が息づく

飢肥城

OBI CASTLE

九州で最初の伝建地区



飢肥城大手門

飢肥藩と伊東家ゆかりの品々が古の栄華を今に伝える



A 飢肥藩ゆかりの品々を展示 飢肥城歴史資料館

飢肥藩伊東家の城下町飢肥には、多くの文化財が残されている。この貴重な文化遺産を保存し、公開するため、昭和53年に開館した。現在飢肥藩ゆかりの資料、約220点が展示保管されている。

主な展示品は甲冑、刀剣、女乗物(駕籠)、武具、古文書、衣服等である。



B 江戸時代を体感できる武家屋敷 松尾の丸

飢肥城跡の一角をしめる松尾の丸には、身分の高い武家の生活が体感できる武家屋敷がある。昭和54年に、全国各地に残る資料を参考に建てられたもので、なかでも蒸し風呂は九州ではここでしか公開されていない逸品である。



C 旧藩主伊東家の屋敷と庭園 豫章館

豫章館は明治2年に旧藩主伊東家が居を移した屋敷で、母屋は本丸奥御殿の書院を解体移築し手を加えたもの。広い敷地には母屋・御数寄屋・雑舎・蔵を配し、入口には薬医門を配している。庭は広い空間に庭石や石灯籠・庭木などが巧みに配置され、閑静なたたずまいを見せている。



D 国際交流センター「小村記念館」

日本の近代外交の礎を築いた明治の外交官・小村寿太郎の遺徳を顕彰して、没後80年を経て平成5年に開館した。

記念館は小村の資料やビデオにより、生い立ちから業績までを紹介している。

国際交流センターは、300人収容の大会議室、50人収容の小会議室と和室がある。



小村寿太郎



E 旧山本猪平家

明治の資産家(商家)屋敷を今に伝える



飴肥の実業家であった山本猪平が、明治40年(1907)頃に建築した商家の本宅で、ほぼ建築当初のまま残されている。飴肥の商人屋敷を現代に伝える遺構として、貴重なものである。

小村寿太郎生誕の場所でもある。



H 小村寿太郎生家

小村寿太郎の生家を保存



小村寿太郎は桂太郎内閣で2度も外務大臣をつとめた。数ある業績の中でも、明治38年(1905)日本側全権として、ポーツマス条約(日露講和条約)を調印し、日露戦争を終結に導いたことは、最たるものである。

その寿太郎の生家が、平成16年に復元された。

F 商家資料館

飴肥商人の暮らしに触れる

飴肥城下の商人町の代表的建物である妹尾金物店を、移築復元して本町の商家資料館とした。建物は明治3年(1870)に山林地主の山本五兵衛が建てたもので、木造一部二階建ての白漆喰壁の土蔵造りで、樹齢200年以上の飴肥杉を使った豪壮な建物である。



I 旧藩校「振徳堂」

小村寿太郎も学んだ飴肥藩の藩校



天保2年(1831)、飴肥藩13代祐相により開校され、孟子の教えにある「又從而振徳之」から振徳堂と名付けられた。教授には安井滄州、息軒親子をはじめとする学者を招き、教育に努めた。小倉処平、小村寿太郎も振徳堂の門下生であった。隆盛期には、講堂、聖堂、槍場、藩公休息の間、書庫などがあり、寮制をしき7歳以上の子弟を教育した。明治維新後は小学校、女学校、青年学校などに使われた。明治10年(1877)の西南戦争では飴肥隊の兵站部となり、銃弾の製造が行われた事もある。

G 旧高橋源次郎家

飴肥の実業家で貴族院議員高橋源次郎が建築した



江夏英璋画

茅葺きであった民家が瓦葺きへ転換していく初期の建築としても、価値が高い建物である。平成22年9月10日、主屋や蔵等の5件が、国の登録有形文化財(建造物)となった。

J 旧伊東伝左衛門家

飴肥藩上級家臣の武家屋敷と庭園



この建物は慶応4年(1868)の城下絵図では伊東伝左衛門家とある由緒ある建物で、19世紀初めの建築と推定される。

材料、工法ともに城下の近世武家屋敷の様相を知ることが出来る恰好の建物として、評価は高い。

四半的 しはんまと

女性も気軽に楽しめる!
体験してみよう!

飴肥藩に伝わる半弓で、射場からのまで四間半、弓矢ともに四尺五寸、的が四寸五分で、すべて四半であることから四半的と呼ばれる。

戦国時代には武将の酒宴で、江戸時代には武士の間で、明治以後は庶民の間で娯楽として行われてきた。



泰平踊 たいへいおどり

江戸元禄の昔から踊り継がれた伝統芸能。侍と奴が、武士の気品と元禄の優雅、伝統と格式の高さを今に伝える。今町(鶴)と本町(亀)の2つの違った踊り方がある。



伊東城下町

「食べあるき・町あるき」

地元のおいしい食べ物や手づくりのお土産と交換できる大人気の引換券付のマップを手に伊東の魅力をつぶりに堪能しませんか!!

お得な「食べあるき」

引換券付マップが人気です!!

マップについて5枚の引換券で、地元の美味しい食べ物や手作りの商品と引換えます。

食べあるき・町あるき券

★引換券(5枚)と、無料施設(E~J)の見学ができます。

伊東城入館券付

食べあるき・町あるき券

★引換券(5枚)と、有料施設(A~D)の入館券のセットです。

お問い合わせ先 (一財)伊東城下町保存会

TEL.0987(67)6029

※参加店には、ノボリ旗が掲げてあります。

引換商品の例

(駐車場販売所)



伊東家と伊東藩

庵木瓜の紋

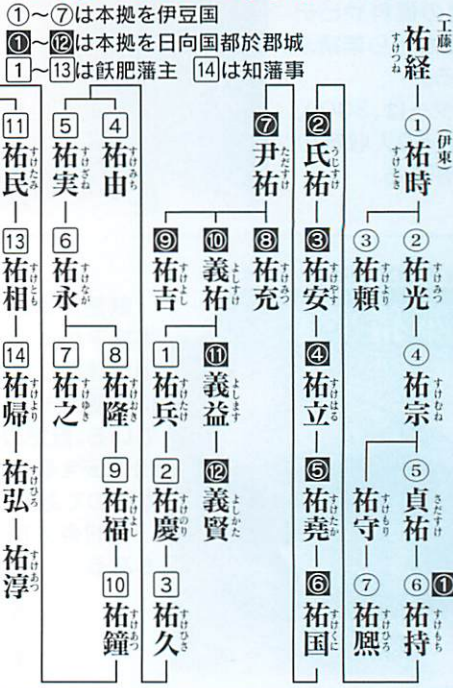


月に星九曜の紋

伊東藩主伊東氏は藤原氏南家の子孫で、鎌倉時代の工藤祐経は伊豆国にあって、源頼朝より日向国内等の地頭に任ぜられた。

伊東祐持(⑥⑩)の時、足利尊氏より都於郡(西都市)に所領を賜り日向国に下る。代々都於郡城を居城に勢力を拡大。⑩伊東三位入道義祐は、伊東城を攻め取り48城を各地に配し、日向国内に覇権を樹立した。しかし天正5年(1577)島津氏に敗れて、国を失い豊後国に落ちた。

伊東氏が大名として復活するのは、豊臣秀吉に仕えた義祐の子・祐兵が、天正15年の九州平定で功績をあげ伊東城を与えられてからである。以降280年余、伊東藩(五万一千石)を伊東氏14代で治めた。



伊東氏家系図



見聞派も、ロマン派も大満足! とっておきの伊東が満載!